

# 英語音の識別力と聴き取りによる理解力について

Aural Perception and Comprehension in English

笹 谷 孝

The objectives of the present study are twofold: (1) to examine the status quo of MMU juniors' aural perception and listening comprehension of the English language; and (2) to investigate the effectiveness of some of the listening exercises designed for the students. Two tests (i.e., pre-and-post) were given at an interval of about three months. The pre-test conducted prior to a course in LLIII revealed that our students are very poor in aural perception and listening comprehension. Therefore, the students were asked to carry out the listening exercises at home and to listen to a listening comprehension tape recorded in the LL. Based upon the results of the two tests, some comments and suggestions are also made regarding ability grouping.

キーワード: LL, オーラル・パーセプション, オーラル・コンプリヘンション,  
事前テスト, 事後テスト, クラス編成

## 目 次

- I はじめに
- II 事前テストについて
- III 事前テストの結果について
- IV 結果の分析と指導のポイントについて
- V 事後テストについて
- VI おわりに

---

## I はじめに

平成11年(1999年)度の前期、3年生の英語「LL III」を2クラス担当することになった。2クラスとも受講者は全員、初めて教える学生であった。LL(Language Laboratory)という科目の特性上、開講に先立ち、受講者一人一人について、英語に関する「音の識別力」並びに「聴き

取りによる理解力」の実態を知る必要があった。

音の識別力の実態調査には、THE SONY LANGUAGE LABORATORY により作成されたテープ GENERAL ENGLISH TEST (T-101) の Aural Perception Test (音の識別力テスト) を用いた。聴き取りによる理解力については、同じ GENERAL ENGLISH TEST (T-101) の Aural Comprehension Test (聴き取りによる理解力テスト) と、メリス研究所のテープ English Aural Comprehension 中級 I・II Lesson2のNo.1からNo.25 およびLesson3のNo.1からNo.25までの計50問を利用した。

開講に先立ってのテスト(以下「事前テスト」と言う。)の実施・分析の結果、「音の識別力」、「聴き取りによる理解力」(以下、「聴解力」と言う。)とも、基礎力が極めて低く、また、学生間にはかなりの差があることが分かった。そこで、受講者に実態を理解・認識させ、開講に先立って示していた講義計画を少し変更し、4月から7月まで週1回、計12回の毎時間、約20分を聴くことの訓練のために割愛した。また、全員にその教材を録音して持ち帰らせ、必要に応じて自主学习をさせ、次週に答え合わせを行った。

そして、最終時間に、「事後テスト」として、同じテストを実施して効果の有無を確かめた。以下は各テストの内容と結果の報告である。

## II 事前テストについて

### 1 Aural Perception Test

このテストは、音(音素)の識別力を測る聴覚力テストで、問題は全部で50題。まず、解答用紙が配付される。解答用紙には各問に対して 0 1 2 3の4つの選択肢が用意されている。解答方法は、問題番号(1, 2, 3... 50)が言われた後に、似かよった文章が3つ続いて読まれる。読まれた3つの文章のうち、同一の文2つ以上を選ぶ。全ての文が異なっている場合は0(ゼロ)を選ぶ。従って、解答は、

- 1) 0 ① ② 3  
 2) 0 1 ② ③  
 3) 0 ① 2 ③  
 4) 0 ① ② ③  
 5) ① 1 2 3 の5通りとなる。

テストは次のような指示(全てテープによる)で始まる。

You are going to have an Aural Perception Test. This test is to see if you can notice the difference between two or three different English sounds. In each question you will hear three sentences. Circle the numbers of the sentences that are the same. When none of the sentences are the same, circle zero.

英語音の識別力と聴き取りによる理解力について (笹谷 孝)

- Example A: It's a hole. The first and second sentences are the same.  
It's a hole. Circle 1 and 2.  
It's a goal.
- Example B: It's a goal. All of the three sentences are the same.  
It's a goal. Circle 1, 2, and 3.  
It's a goal.
- Example C: It's a goal. None of the three sentences are the same.  
It's a hole. Circle zero.  
It's a pole.

Now, you try it.

1. That's quite light.  
That's quite right.  
That's quite right.
2. He's going to live.  
He's going to live.  
He's going to leave.
3. Voting is interesting.  
Boating is interesting.  
Voting is interesting.
4. Don't pull them.  
Don't pool them.  
Don't pool them.
5. They hum all day.  
They hum all day.  
They hung all day.

紙面の関係で、以下は識別すべき音を含む単語を示すにとどめる。

- |                   |                     |
|-------------------|---------------------|
| 6. force/horse    | 7. nuts/noughts     |
| 8. tip/chip       | 9. run/rung         |
| 10. pin/pen       | 11. scene/sheen     |
| 12. color/collar  | 13. sink/think      |
| 14. did it/digit  | 15. longing/logging |
| 16. then/zen      | 17. leisure/ledger  |
| 18. letter/latter | 19. heading/herring |
| 20. gest/zest     | 21. rock/rack       |

- |                           |                         |
|---------------------------|-------------------------|
| 22. lamp/lump             | 23. pass it/passed      |
| 24. seat/seats            | 25. ear/year            |
| 26. bird/birds            | 27. girls/gulls         |
| 28. hole/hall             | 29. had/heard           |
| 30. farm/firm             | 31. collected/corrected |
| 32. bolts/volts           | 33. soot/suit           |
| 34. hall                  | 35. pop/pup             |
| 36. mouse/mouth           | 37. raids/raise         |
| 38. ringing/rigging       | 39. teasing/teething    |
| 40. hit/hat/hut           | 41. blacked/blocked     |
| 42. pet/pat/putt          | 43. birds/buds          |
| 44. saw/sew               | 45. banning/burning     |
| 46. thirteen/thirty       | 47. butter/batter       |
| 48. in her/in our         | 49. all/wall            |
| 50. It sprays/It's praise |                         |

ついでながら、問題文の長さは、2語文(2問)、3語文(10問)、4語文(19問)、5語文(10問)、6語文(8問)、7語文(1文)で、平均4.3語である。所要時間は、テストについての説明及び指示(You are going to have an Aural Perception Test. から Now, you try it. ま)で)に1分42秒かかり、テスト自体に費やした時間は10分49秒である。

各問とも、テープによる問題は、ごく自然に、自然の速さで読まれる。3つの文は息継ぎのポーズだけで引き続き読まれる。6秒後に次の問題に移る。問題作成者、テープ吹き込み者が計算し意識したかは定かでないが、このテストは平均して、問・ポーズとも各6秒で、被験者には一定のリズムで解答できたのではないかと推測される。

## 2 Aural Comprehension Test

このテストは、話された英語を聞いて、すぐに理解するという聴き取りによる理解力のテストで、問題は全部で50題。チャートを見ながら行う。問題番号が言われた後に、文章が1つだけ読まれる。その読まれた文がチャートのA, B, Cの絵のうちのどれを表したものか判断し、合致する絵の符号(A, B, C)を解答用紙上の符号に○をつけて答える。

テストは、チャートと解答用紙が配付された後、次のような指示と解答方法の説明で始まる。

You are going to have an Aural Comprehension Test. Listen to the tape and pick the right picture that fits the given sentence from among the pictures A, B, and C.

Example: No. 51. This is a man. Picture C fits the given sentence. Circle C.

Now, you try it:

1. I can't reach it.
2. It is very cold in the room.
3. She is running after the man.
4. They are walking through a shower.
5. You see many apples under the table.

以下は紙面の関係で省略するが、問題文も内容も少しずつ難しくなっていく。

ついでながら、問題の構成は全て1文で、複文(3問)、重文(6問)、単文(41問)である。文の長さは、4語文(2問)、5語文(2問)、6語文(8問)、7語文(14問)、8語文(4問)、9語文(7問)、10語文(4問)、11語文(4問)、12語文(2問)、13語文(1問)、15語文(1問)、16語文(1問)で、平均4.3語である。

各問とも、ごく自然に、普通の速さで読まれる。4秒後に次の問題に移る。

所要時間は、指示・説明に30秒、問題に7分30秒で計8分である。従って、1問に費やされる時間は、答えを○で囲む時間を含めて平均9秒である。

### 3 メリス・テープ テスト

THE SONY LANGUAGE LABORATORY により作成されたテープ GENERAL ENGLISH TEST (T-101) の Aural Perception Test と Aural Comprehension Test はセットになっている。しかし、Aural Comprehension Test は大学生には易しすぎるし、3つの選択肢から1つを選ぶのでは偶然性が入り込むのは避けられない。そこで、メリス・テープのテストを併用した。メリス・テープは 初級Ⅰ・Ⅱ、中級Ⅰ・Ⅱ、中級Ⅲ・Ⅳ、上級Ⅰ・Ⅱの4つのシリーズから成っている。英語の質問に対して数字、アルファベットの文字または英語の単語で答えるクイズ形式で一貫している。従って、multiple choice (多肢選択法) の欠点を免れる利点がある。今回は、中級Ⅰ・Ⅱ Lesson2のNo.1からNo.25、および Lesson3のNo.1からNo.25までの計50問を利用した。クイズは次のような内容のものが読まれる。

1. Beginning with the letter "S," form a word which means the status of someone before marriage. A six letter word.
2. Beginning with the letter "C," form a word which means a man and woman who are married. A six letter word.
3. "House" is the place where we live. If you change the third letter of the word "house" you can get a new word which means a certain four-legged animal. What is this new word?
4. "Zoo" is a park where many animals are kept. If you change the first letter of the word "zoo" you can get a certain adverb which means "also." What is this word?

5. "Bank" is the place where we keep our money. If you change the last letter of "bank" you can get a new word which means a group of musicians who play together. What is this new word?

以下省略するが、質問の内容は、バラエティに富み、多岐にわたる。50の設問の構成は、1文(4問)、2文(15問)、3文(20問)、4文(8問)、5文(3問)である。1問の語数は、最少15語、最多44語、平均29語である。

各問とも、ごく自然に、普通の速さで読まれる。答えを記入するために5秒だけポーズが置かれる。所要時間は、ポーズを含めて合計14分40秒である。従って、1問平均17.6秒である。

### III 事前テストの結果について

テストの結果を生かすためには、被験者グループから逸脱している者の成績を、被験者群の「中心化傾向 (central tendency)」と「散布度 (dispersion)」の両側面から視覚化する必要がある。中心化傾向は、「平均値 (mean)」、「最頻値 (mode)」、「中央値 (median)」、「中点 (midpoint)」等によって判断されるが、今回は、平均値と中点だけを採用した。個々の成績が中心化傾向からどのぐらい逸脱しているかを探る手がかりが散布度である。散布度には、「範囲 (range)」、「標準偏差 (standard deviation)」、「分散 (variance)」が指標とされる。周知の通り、「範囲」は測定値の「最高点-最低点+1」で得られる。また、「標準偏差 (S、sまたはS.D.)」は各得点と平均点の差を二乗し、その合計を受験者数で割った数の平方根で得られる。「分散」は標準偏差値を二乗した値と同じである。今回は、分散は割愛した。

テストを実施した2クラス(x組、y組と仮称する。)のデータは大略次の通りである。

表1 1999年4月12日実施 事前テスト結果(クラス別)

統計値	x組			y組		
	AP	AC	メリス	AP	AC	メリス
受験者数(N)	51.00	51.00	51.00	49.00	49.00	49.00
項目合計数(k)	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00
平均値	27.29	37.45	12.24	26.20	36.24	11.43
中点	27.50	35.00	15.00	27.00	36.00	19.50
最低-最高	19-36	24-46	1-29	18-36	26-46	0-39
範囲	18.00	23.00	29.00	19.00	21.00	40.00
標準偏差	4.32	4.57	5.92	4.75	4.81	8.14

注：・APはAural Perception Test      ・ACはAural Comprehension Test  
 ・メリスはメリス・テープ テスト      ・各テストとも50点満点

x組、y組とも、いわゆる学力別編成によるクラスではなく、自然学級である。テストの結果から得られたデータは2組の間で大差は見られなかった。従って、別々に分析しなければならない必然性はないし、たまたま2組の合計がちょうど100名で、実数とパーセンテージが一致する利点があるので纏めて集計・報告することにする。

表2 1999年4月12日実施 事前テスト結果 (2クラス分)

統計値	AP	AC	メリス
受験者数	100.00	100.00	100.00
項目合計数	50.00	50.00	50.00
平均値	26.76	36.86	11.84
中点	27.00	35.00	19.50
最低-最高	18-36	24-46	0-39
範囲	19.00	23.00	40.00
標準偏差	4.54	4.71	7.07

音素識別は単語を聞き分けるのには必要であるが、その能力が英語を聞いて理解することとそれ程関連があるとは考えられない。従って、Aural Perception の能力と Aural Comprehension の能力の間には必ずしも相関関係があるとは思えないが、念のため調べてみると、予想通りの結果を得た。

表3 識別力と聴解力の相関 (2クラス分)

	AP-AC	AP-メリス
相関係数	0.39	0.25
決定係数	15.21	6.25

注： 相関係数 (r) は「ピアソンの積率相関係数」(Pearson's product moment correlation coefficient)の式 即ち、

$$r = \frac{N \times (\sum XY) - (\sum X) \times (\sum Y)}{\sqrt{N \times (\sum X^2) - (\sum X)^2} \times \sqrt{N \times (\sum Y^2) - (\sum Y)^2}}$$

また、決定係数 (coefficient of determination) は相関係数の2乗に100を掛けたものである。

相関関係の強さの限界は明確ではないが、一般に、 $r > 0.7$  くらいなら強く、 $r < 0.3$  くらいなら弱いと考えられている。従って、今回、事前テストで測定した学生の識別力と聴解力の相関は決して強いとは言えない。少し抽象的だから、決定係数 で判断するほうがより分かり易い。相関係数が0.39であることの意味は、AP (識別力) テストの得点とAC (聴解力) テストの得点とは、その重なり合っている部分が15.21%しかなく、残りの84.79%はそれぞれ独自の能力を測定したことに

なる。相関係数が0.25で決定係数が6.25ということは、その傾向が更に顕著であることを示している。

### 1 Aural Perception Test

各問1点とし、50点満点。100名の総点2,676点、従って平均は26.76点。100点満点に換算すると53.52点で、聴解力が貧弱であることを示している。各問については、次の通りである。

( )内の数字は100名中の正解数であり、同時に百分率(%)でもある。

- |                              |                                |
|------------------------------|--------------------------------|
| 1. light/right (29)          | 2. live/leave (95)             |
| 3. boating/voting (8)        | 4. pull/pool (60)              |
| 5. hum/hung (16)             | 6. force/horse (30)            |
| 7. nuts/noughts (70)         | 8. tip/chip (52)               |
| 9. run/rung (37)             | 10. pin/pen (53)               |
| 11. scene/sheen (79)         | 12. color/collar (17)          |
| 13. sink/think (18)          | 14. did it/digit (95)          |
| 15. longing/logging (50)     | 16. then/zen (50)              |
| 17. leisure/ledger (27)      | 18. letter/latter (79)         |
| 19. heading/herring (68)     | 20. gest/zest (89)             |
| 21. rock/rack (68)           | 22. lamp/lump (63)             |
| 23. pass it/passed (85)      | 24. seat/seats (86)            |
| 25. ear/year (8)             | 26. bird/birds (66)            |
| 27. girls/gulls (40)         | 28. hole/hall (24)             |
| 29. had/heard (15)           | 30. fārm/firm (75)             |
| 31. collected/corrected (19) | 32. bolts/volts (23)           |
| 33. soot/suit (72)           | 34. hall (72)                  |
| 35. pop/pup (33)             | 36. mouse/mouth (22)           |
| 37. raids/raise (25)         | 38. ringing/rigging (62)       |
| 39. teasing/teething (56)    | 40. hit/hat/hut (89)           |
| 41. blacked/blocked (24)     | 42. pet/pat/putt (96)          |
| 43. birds/buds (53)          | 44. saw/sew (68)               |
| 45. banning/burning (65)     | 46. thirteen/thirty (78)       |
| 47. butter/batter (57)       | 48. in her/in our (78)         |
| 49. all/wall (68)            | 50. It sprays/It's praise (59) |

これを難易順に番号、例文と共に示すと、次のようになる。なお、受験者は100名であるから、正解者数はそのまま百分率(%)となる。

難易順	テスト中のNo.	問題文	正解者数 (並びに%)
	1.	3. Boating/Voting is interesting.	8
	1.	25. One ear/year is not enough.	8
	3.	29. We had/heard a fine concert yesterday.	15
	4.	5. They hum/hung all day.	16
	5.	12. I want a different color/collar.	17
	6.	13. It's impossible to sink/think here.	18
	7.	31. She collected/corrected the papers.	19
	8.	36. His mouse/mouth was rather large.	22
	9.	32. We need one hundred bolts/volts.	23
	10.	28. The hall/hole is not large enough.	24
	10.	41. They blacked/blocked out the room.	24
	12.	37. I like the raids/raise.	25
	13.	17. I've no ledger/leisure.	27
	14.	1. That's quite light/right.	29
	15.	6. The farmer needed a big horse/force.	30
	16.	35. It was just a little pop/pup.	33
	17.	9. I've run/rung it.	37
	18.	27. He likes to look at the girls/gulls.	40
	19.	15. They're logging/longing for money.	50
	19.	16. We're studying zen/then.	50
	21.	8. Don't chip/tip the glass.	52
	22.	10. She had a gold pin/pen.	53
	22.	43. See the birds/buds on the trees.	53
	24.	39. He's teasing/teething.	56
	25.	47. The batter/butter is out.	57
	26.	50. It sprays/It's praise.	59
	27.	4. Don't pull/pool them.	60
	28.	38. They're ringing/rigging the bells.	62
	29.	22. He wants a lamp/lump.	63
	30.	45. They're banning/burning those books.	65
	31.	26. I want the bird/birds.	66
	32.	19. The heading/herring is bad.	68
	32.	21. Where's the rack/rock?	68

32.	44.	Do you know how to saw/sew?	68.
32.	49.	I think he said "all"/"wall".	68
36.	7.	How many nuts/noughts are there here?	70
37.	33.	I don't like this soot/suit.	72
37.	34.	I met him in the hall/hall/hall.	72
39.	30.	It's a large farm/firm.	75
40.	46.	He's thirteen/thirty years old.	78
40.	48.	She's in her/our room.	78
42.	11.	That's a beautiful scene/sheen.	79
42.	18.	Where's the latter/letter?	79
44.	23.	They always passed/pass it.	85
45.	24.	Go to your seat/seats.	86
46.	20.	We like the gest/zest.	89
46.	40.	There's the hit/hat/hut.	89
48.	2.	He's going to live/leave.	95
48.	14.	One digit/did it.	95
50.	42.	That was a good pet/pat/putt.	96

## 2 Aural Comprehension Test

テストの結果を難易順に番号、例文とともに示すと、次のようになる。なお、受験者は100名であるから、正解者数はそのまま百分率(%)となる。

難易順	テスト中のNo.	問題文	正解者数(並びに%)
1.	19.	Nineteen and six would make this number.	3
2.	38.	The child put her hand up.	22
3.	36.	She gave Bob an apple.	27
4.	8.	Neither Tom nor Bessie is at home.	30
5.	44.	I told you to bring me a book, not two.	33
6.	48.	He is having his shoes shined.	38
7.	21.	There is a triangle without any number.	41
8.	49.	He is too busy to play golf.	42
9.	24.	It looks like rain.	45
10.	40.	There is a long pencil on each side of the short one.	56
11.	12.	They are going up a hill at night.	57

12.	28.	If you take one from thirty, you will get this number.	58
13.	35.	He doesn't like to have many pictures in the room.	65
13.	46.	The lady helped the old man get out of the car.	65
15.	45.	The giant was knocked out by the small man.	66
16.	37.	He has a television set and a few radios.	71
17.	23.	The man is standing against the wall.	72
18.	9.	He usually has his breakfast at 7:15.	74
18.	18.	This man isn't as fat as that man.	74
20.	14.	The man is standing and has his hat off.	76
21.	11.	He is lying on his back.	77
22.	25.	They are taking care of the flowers.	78
22.	42.	None of the children are boys.	78
24.	41.	He is sitting on the chair with his legs on the desk.	80
25.	1.	I can't reach it.	81
26.	50.	The man is putting his tie on while the woman is watching him do it.	83
27.	26.	The secretary entered the office and is walking toward her desk.	84
27.	29.	We always have breakfast together at 7:45.	84
29.	4.	They are walking through a shower.	85
29.	7.	The car is parking near the gate.	85
29.	34.	My brother hasn't found his ball yet.	85
32.	39.	He is pouring water from a bottle into a glass.	87
32.	47.	One of these numbers cannot be divided by three.	87
34.	15.	The two women were just leaving the building.	88
34.	43.	Although the telephone is ringing, nobody tries to answer it.	88
36.	30.	A dog came running to her.	89
37.	27.	He has just turned off the light.	90
37.	32.	Three men are in the picture, and the man in the middle has his hat on.	90
39.	10.	There are lots of airplanes in the hangar.	91
39.	33.	He is going to take a bath.	91

41.	17.	He is going to church on a sunny day.	93
41.	20.	The man walking along the street is my father.	93
43.	5.	You see many apples under the table.	95
43.	6.	They are listening to him.	95
43.	31.	All are tall men and they are sitting on the chairs.	95
46.	16.	The man is fat and short, but the woman is tall and skinny.	97
47.	3.	She is running after the man.	98
48.	2.	It is very cold in the room.	99
48.	13.	The movie is over and people are going home.	99
50.	22.	They are talking to each other.	100

3 メリス・テープ テスト

II. 3で例示した問題1～5の正解者数（並びにパーセンテージ）は、1-5、2-13、3-10、4-19、5-27であった。50問に対する正解者数（並びにパーセンテージ）は次の通りである。（0-2 は1人も正解できなかった問が2題あり、83-1 は83人が正解できた問が1題あったことを示す。）

正解者数	-	問数	正解者数	-	問数	正解者数	-	問数
0	-	2	1	-	3	2	-	3
3	-	1	4	-	2	5	-	1
6	-	1	9	-	1	10	-	1
11	-	1	12	-	1	13	-	2
15	-	1	16	-	1	18	-	1
19	-	2	21	-	1	22	-	2
23	-	1	24	-	2	26	-	1
27	-	3	32	-	1	34	-	2
35	-	2	39	-	1	42	-	1
43	-	1	45	-	2	47	-	1
57	-	2	60	-	1	69	-	1
83	-	1						

以下、正解が5人（5%）以下の問題だけを文字で示す。

Lesson 2-No.7 You might be thought strange if you said to the ticket man at the train station, "Please give I a ticket to Chicago." what word should you use in place of I? (正解者数:0) [以下、数字のみ記載]

2-21 Last year we had a very hard winter. Not only did it snow a lot,

- but the temperatures were very low. This means it was very what? Begin with a "C." (0)
- 3-7 How can you express the unit of length used in the U.S.A., which is one twelfth of a foot? (1)
- 3-15 What is the sense organ with which animals and humans alike make out sound? A three-letter word. (1)
- 3-20 I have in my hand something round. If I throw it against the wall, it will bounce back. We often see the same kind of things used in games. What do I have? Answer in four letters. (1)
- 2-19 What kind of fruit is the one most often used in making wine? Begin with a "G" and write the plural form. (2)
- 3-1 This is a letter in the alphabet. When it is pronounced, it can also mean a beverage which is one of the most popular hot drinks beside coffee. What is this letter? (2)
- 3-14 If you start doing something and then keep on doing it over and over, that action soon becomes a what? A five-letter word. (2)
- 2-8 It would be strange if you said to someone, "Miss Yamada has his own car." What word should you use in place of "his"? (3)
- 2-14 The park closes at 5:30 at the latest. That means at that time the what will be closed? Begin with a "G" and use four letters. (4)
- 2-17 Tom and Mary are fighting over a ball. They both say it is theirs. Mary says it is hers while Tom says it is blank. What word goes in the blank? Begin with an "H." (4)
- 以下、紙面の関係上、割愛し、5割(50名)以上の者が正解した5題のみ示す。
- 3-13 This is a favorite pet animal, the best breed of which is supposedly Persian or Siamese. Write the name of this animal, beginning with the letter "C." (57)
- 3-22 Many families keep small animals, such as a dog, cat, bird, or fish in their homes. What do you call such an animal kept as a companion and treated with care and affection? A three-letter word. (57)
- 2-10 Most traffic lights shine green for go, yellow for caution and what color for stop? (60)
- 2-15 There are three main colors that are put together to make other

colors. They are blue, yellow, and what other color? (69)

- 3-12 Each country has its own national flag. The national flag of France is called the Tricolor because it has three colors: white, red, and one other color. What is this color? The word begins with a "B." (83)

#### IV 結果の分析と指導のポイントについて

##### 1 Aural Perception Test

[b]-[v], [i]-[j], [æ]-[ə:], [m]-[ŋ], [ʌ]-[ɑ], [s]-[θ], [l]-[r], [ɔ:]-[ou], [æ]-[ɑ]のコントラストの識別が困難であることが分かった。予想どおりではあるが、それにしても、上記の各組のコントラストを正しく識別できた者は、いずれも25名(25%)以下というのは問題である。原因は、中学校の入門期にしっかりした訓練を受けなかったか、受けた訓練が身に付かなかったかであろう。あるいは、身に付いたのがその後錆びてしまったかである。言語習得の臨界期(Critical Period)に関してはいろいろ意見の別れるところではあるが、音声面での習得に関する限りはこの仮説は概ね支持されている。即ち、発音に関しては、10歳を越えると完全な習得が困難となるのは疑いのない事実である。幼児は発音を含めて、ことばの習得の天才であるが、いわゆる言語習得の臨界期(Lennebergによれば、3歳ごろから10代初期まで)を過ぎると、母語にない音素を聞き分けるのは非常に難しくなる。そして、受容できない音を産出することは不可能である。しかし、現状をそのまま放置するわけにはいかない。音の識別は発音の前提となるに違いないが、錆び付いてしまった耳を酷使して効果の少ない聴き取りドリルで、時間とエネルギーを消耗するより、調音・発音に基づいて、正しい調音・発音の訓練から始めて、自分の発音を自分の耳で確かめながら、調音と識別の両方の要領を同時に体得するのが得策である。従って、学生にはその旨の了解のもとに、演習中は最少限度の発音・発声練習にとどめ、宅習による各自の努力に委ねることとした。

##### 2 Aural Comprehension Test

正解率が25%以下が2問あった。3%のNo.19と22%のNo.38である。No.19の問題は“Nineteen and six would make this number.”を聴いてチャートに示されたA96、B25、C84の中から一つ選ぶ問題である。殆ど全員が“nineteen and six”を“ninety and six”と誤解したことに発音指導の盲点の一つが潜んでいる思いである。入門期の段階で-teenと-tyの区別に苦勞する学習者は多いが、大学生では問題ないと思っていた。ところが、n-linking(n-連結)により、nineteen and [nàintí:n ənd]が[nàintí:nənd]にsound transition(音の変化)を起こしたことを認識できた者は非常に少ない結果となった。音の連結(linking or liaison)だけでなく、音

に関しての脱落 (elision)、同化 (assimilation)、異化 (dissimilation) 等については、とかく軽視されがちであるが、入門期からしっかり学習し、絶えず訓練を積まなければ日本人の英語学習者はいつまでもその弱点を引きずることになる。

もう一つ大切なことは、アクセントに無頓着であってはならないことである。n-linking により、[nàintí:n ənd] が [nàintí:nənd] に sound transition を起こしたこととしても、nineteen [nàintí:n] のアクセントの輪郭はそのまま残るのが普通である。本テストにおいても、第1アクセントは第2シラブル (teen) に置かれている。従って、第1シラブル (nine) にアクセントがあり、第2シラブル (ty) に強勢の置かれることのない ninety と区別がつかない筈はない理屈であるが、日本人の英語学習者は [ti:n] と [ti] の相違を聞き分けることにだけに細心の注意を集中してしまい、アクセントにまで気が回らず、木を見て森を見ない誤りを犯す結果になりかねないのである。

### 3 メリス・テープ テスト

このテストは、Aural Comprehension Test と同様、いわゆるリスニングのテストである。リスニングは、スピーキング、リーディング、ライティングと共に「基本的言語技能 (the basic language skills)」と呼ばれるものであるが、その中でも最も基本的な技能である。話しことば (spoken language) としてのリスニングは、書きことば (written language) としてのリーディングと共に受容的スキル (receptive skills) と分類されることがあるがそれは間違いである。両方共、発表的スキル (productive skills) とされるスピーキング、ライティングに劣らず能動的で、ダイナミックな言語活動である。とりわけ、リスニングはコミュニケーション能力の根幹をなすものである。その欠如は致命的と言わなければならない。認知科学や認知心理学に基づくスキーマ理論では、スキーマ (schema) を 'data structures for representing the generic concepts stored in memory' (記憶に貯えられた包括的な概念を表すデータ構造) と定義する。リスニング活動においては、スキーマは、内容に関する背景知識としての内容スキーマ (content schema) と言語学的知識に関する形式スキーマ (formal schema) を用いることになる。各スキーマには、上位と下位の階層があり、トップダウン (top-down) とボトムアップ (bottom-up) の二方向の起動方法で具体的スキーマが引き出されると考えられる。

今回のテストで現れた顕著な傾向は、スキーマを引き出す二方向の起動方法に弱点があることである。正解率が最も高かった3-12の問題では、country-national flag-France-Tricolor-white-red から正解の black に到達するのは、一直線思考 (linear thinking) によるボトムアップで可能であった。他方、2-7の問題では、you-stranger-if-ticket man-train station-ticket to Chicago とスキーマの構成材料が頭の中で錯綜して問題解決のヒントとはならず、むしろ、それらが絡み合って迷路となり、その中で出口を見失う結果となった。木を見て森を見ないのも問題だが、森の中で目印の木を見失ってしまうと、森から抜け出すことはできない。目印になる木を確認しながら、森の中を歩く実践を積むことが肝要である。その理屈で、毎時間約20分

をメリス・テープによるリスニング・クイズに費やした。前述の通り、メリス・テープは初級・中級・上級に分かれており、各 Lesson は約30題のクイズ形式になっている。実態に即して、初級から始めることにし、毎時間 2 Lesson をテープに録音しながら解答させた。問題は繰り返さない建て前にはいるが、答えが分からなかったり自信のない問題については、徹底的に宅習するよう指示し、次の時間に答え合わせを行なった。事前テストに用いた中級の Lesson 2 と Lesson 3を除き、中級の約半分まで消化することができた。その効果については後述する。

## V 事後テストについて

前述の通り、開講に先立って発表している講義計画を大幅に変更することはできないが、実態に対応した最小限度の変更はやむを得ない。また、事前テストを実施する段階で、その後の指導の効果・伸びを測定するために事後に同じテストを行うことも必要と考えていた。学生が同じテストが再度行われることを予想したり、事前テストの問題を記憶しては、事後テストの信頼性 (reliability) も妥当性 (validity) も損なわれる。それで、そのことは全く内緒とし、個々の学生に自分の弱点を認識させ、各自努力するよう指示するにとどめ、テストの解説や正解を与えることは控えた。従って、事後テストによって得られた資料は、妥当で信頼に値する客観的なデータだと考える。その大略は以下の通りである。

表4 1999年7月26日実施 事後テスト結果 (クラス別)

統計値	x組			y組		
	AP	AC	メリス	AP	AC	メリス
受験者数	48.00	48.00	48.00	47.00	47.00	47.00
項目合計数	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00
平均値	30.50	39.60	21.85	29.38	38.85	22.64
中点	26.50	39.00	24.50	26.00	38.50	25.50
最低-最高	13-40	31-47	10-39	13-39	28-49	6-45
範囲	28.00	17.00	30.00	27.00	22.00	40.00
標準偏差	5.01	3.55	7.30	6.70	4.66	8.96

表5 1999年7月26日実施 事後テスト結果 (2クラス分)

統計値	AP	AC	メリス
受験者数	95.00	95.00	95.00
項目合計数	50.00	50.00	50.00
平均値	29.59	39.23	22.24
中点	26.50	38.50	25.50
最低-最高	13-40	28-49	6-45
範囲	28.00	22.00	40.00
標準偏差	5.90	4.13	8.13

表6 事前テスト/事後テスト/伸びの結果 (2クラス分)

	事前テスト			事後テスト			伸び		
	平均	最低	最高	平均	最低	最高	平均	最低	最高
AP	26.76	18	36	29.59	13	40	2.83	-5	4
AC	36.86	24	46	39.23	28	49	2.37	4	3
メリス	11.84	0	39	22.24	6	45	10.40	6	6

表7 メリス・テストにおける伸び (個人別)

伸び (点数)	28	23	19	18	17	16	15	14	13	12	11
人数	1	1	2	2	5	4	4	7	7	5	6
伸び (点数)	10	9	8	7	6	5	4	3	2	-1	
人数	8	8	4	7	5	11	3	2	2	1	

## VI おわりに

今回の補助的指導のポイントは、学生の実態をふまえて、英語の聴解力を養成し強化することであった。指導の結果は「表6 事前テスト/事後テスト/伸びの結果 (2クラス分)」に示された通りであり、特にメリス・テープによるテストのデータに顕著に現れていると思われる。50点満点で、平均点は11.84から22.24へと倍近くになった。最低-最高の点数も0-39から6-45となった。個人別の伸びは「表7 メリス・テストにおける伸び (個人別)」で分かるように、1人を除いて全員が伸び、20点以上も飛躍的にアップした者も2名おり、高い評価に値する。しかし、教育の場での評価は、常に「形成的評価」即ち、学習指導の途中で指導方法の確認や修正のために行う評価でなければならないことは当然である。以下、クラス編成の見直しについて少し言及しておきたい。

LL (Language Laboratory)は本来、個別学習の場であり、学習者間の学力・習熟度の差にそれ程神経を使わなくてもよいのであるが、科目 (必修)としてのLLクラスにおいては、学習者に応じて教材・課題に幅を持たせるとしても、それには限度がある。学力・習熟度の差がある範囲に収まれば、提供される教材及びそれに基づく課題がより効果的であることは当然である。いま、仮に、事前のメリス・テープテストをプレイスメント・テスト (placement test: クラス分け試験)として採用し、2クラスを編成すると、11点以上の得点者51名と10点以下の得点者49名の2つに分けることになるだろう。すると、上位と下位の各グループのデータは次のようになる。

	上位 (1~51)	下位 (52~100)
平均値	16.90	6.57
中点	25.00	5.00
最低-最高	11-39	0-10
範囲	29.00	11.00
標準偏差	6.18	2.78

上位クラスにはまだ問題が残っており、別途考慮の余地はあるが、「表2 1999年4月12日実施事前テスト結果 (2クラス分)」に現れた平均値 11.84、中点 19.50、最低-最高 0-39、範囲40.00、標準偏差 7.07の分散の度合いは大幅に緩和され、それぞれのクラスでは格段に効果のあがる学習・指導が期待できるはずである。本学では平成5年の開学以来、英語のクラス編成についてはいろいろ検討・配慮してきたが、学生の実態を把握した上で、自然学級編成を維持してきた。然し、昨今、高等学校におけるカリキュラムの多様化等の影響もあり、学生の英語学力にかなりの差異が見られ、到達度・学力の差に応じた学習・指導を余儀なくされる事態を迎えている。到達度・学力別クラス編成の導入に、この報告が何かの参考になれば望外の幸いである。

## 参考文献

- Brown, J. D. 1996. *Testing in Language Programs*. Prentice Hall Regents.
- [和田 稔 (訳). 1999. 『言語テストの基礎知識』. 大修館書店.]
- ECOLA (education for communication and language). 英語科教育実践講座.
- VTR 解説書. 英語科教育実践講座刊行会.
- Malmkjae, K. (Ed.) 1991. *The Linguistics Encyclopedia*. Routledge.
- 大友賢二. 1996. 『言語テスト・データの新しい分析法 項目応答理論入門』.
- 大修館書店.